

(別添1)

No.	1
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和4年5月

## 麦・大豆生産性向上計画

都道府県名：福岡県

## 1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

### (1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

- ・福岡県は、耕地面積79,300haのうち約8割を水田が占め、水稻を中心に麦、大豆等が作付されている。個別大規模農家や集落営農法人といった持続性のある担い手の育成や水田フル活用による所得の確保により生産拡大を図ることで、小麦は全国2位、大豆は全国4位と全国有数の産地となっている。
- ・近年、主食用米の国内需要が減少する中、水田面積を維持し安定した水田農業経営を実現するためには、麦・大豆の生産を拡大するとともに、飼料用米等の生産拡大や園芸品目の導入等が必要である。
- ・麦・大豆の生産拡大に当たっては、生産者数が減少し担い手への農地等の集積が進む中、団地化や高性能農業機械の導入等による効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。
- ・麦類は、需要に応じた品種への作付転換を図るとともに、大豆は、実需者の評価が高く、収量の高い新品種に転換を進める。
- ・本県では、県の農林水産振興基本計画により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産拡大に係る取組をより具体化するとともに、生産者や市町村、JA等の関係者との連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図っていく。

### (2) 県で推進する団地の基準等

「団地」は、同一作物が作付されており、農業機械の作業が中断されず、作業を継続してできる農用地の一団の集まりとする(4ha)。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

<p>〈麦類〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和3年産麦類の生産量は約10.5万トで、県内外の製粉業者等へ販売。</li><li>・これまで大麦品種(はるか二条、はるしずく)のミスマッチを解消するため、大麦から小麦への作付転換を進めてきた結果、小麦「チクゴイズミ」の作付面積が増加し、「チクゴイズミ」もミスマッチ状態となっている。「シロガネコムギ」等需要のある小麦品種への作付誘導が必要。</li><li>・「シロガネコムギ」は地力の低い地域では穂数が確保出来ず収量が劣るため、現在は地力の高い県南の一部地域でのみ作付けされており、それ以外の地域では「チクゴイズミ」が作付けされている。一部産地において「チクゴイズミ」⇒「シロガネコムギ」への転換が必要。</li><li>・硬質小麦「ミナミノカオリ」及び「ちくしW2号」は、品質(タンパク質含有率)の高位安定化が必要。</li></ul> <p>〈大豆〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大豆は、主に豆腐や豆乳の原料として使われ、九州の豆腐・豆乳メーカーに販売されている。</li><li>・近年、気象の影響から作柄が不安定で安定供給が達成できておらず、安定生産のための栽培技術の導入・普及や、フクユタカより播種期間が広く、加工適性の高い品種への切替が必要。</li></ul>
--

※ 麦については、直近の民間流通連絡協議会における販売予定数量と購入希望数量がわかる資料を添付すること。

### (2) 生産における現状と課題

<p>〈麦類〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・近年、作付面積は微増傾向で、収量は直近3年間豊作である。</li><li>・今後は、実需者が求める品種への切替を進めるとともに、安定生産のために、適期播種の徹底、土壌診断に基づく施肥、排水対策等の栽培技術の徹底を図る。</li><li>・また、硬質小麦は品質(タンパク質含有率)のバラつきが大きく、実需者から安定した品質が求められており、穂揃い期追肥の徹底を図る。</li></ul> <p>〈大豆〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・近年、作付面積は微減、収量は天候の影響により、低下傾向にある。</li><li>・収量の低下要因として、大豆作付頻度の増加に伴う地力の低下、播種の遅れ、梅雨明け後の乾燥、台風による倒伏、帰化アサガオ類等の難防除雑草の蔓延が挙げられる。</li><li>・収量を向上させるため、有機物投入等による地力の回復を図るとともに、土壌診断に基づく施肥や土壌改良資材の施用、効率的な播種技術の導入、排水対策、難防除雑草対策等による早急な収量向上技術の確立が必要。</li><li>・また、生産者の減少に伴い、1経営体当たりの作付面積が拡大しており、作業の効率化を図り適期に作業を実施するため、作付の団地化推進やスマート農業機械の導入支援等が必要。</li></ul>
--

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	5,190	5,140	5,340	362	453	381	18,800	23,288	20,319
	チクゴイズミ	5,340	5,110	5,070	344	439	348	18,348	22,415	17,654
	ニシホナミ	670	690	720	383	510	353	2,568	3,521	2,544
	ミナミノカオリ	1,800	2,000	1,730	316	384	389	5,679	7,679	6,727
	ちくしW2号	1,800	1,760	1,840	351	474	363	6,310	8,340	6,684
大麦	はるしずく	2,700	2,550	1,490	266	343	331	7,171	8,739	4,933
	はるか二条	1,710	2,110	3,630	313	403	354	5,347	8,494	12,844
	ほうしゆん	1,240	1,360	1,040	252	349	232	3,127	4,747	2,408
	しゆんれい	380	160	50	207	280	228	787	448	114
	はるさやか	30	50	60	200	380	257	60	190	154
	くすもち二条	23	120	610	461	283	397	106	340	2,419
裸麦	イチバンボシ	500	390	430	180	329	260	901	1,284	1,117
作物計		21,383	21,440	22,010	324	417	354	69,204	89,485	77,917

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	フクユタカ	8,280	8,250	8,220	156	107	125	12,900	8,830	10,300
作物計		8,280	8,250	8,220	156	107	125	12,900	8,830	10,300

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (1) 取組方針

##### ① 需要に応じた生産と販売の実現

〈麦〉

・供給過剰となっている大麦品種は、小麦品種への転換等により作付面積を減少させるよう誘導。

大麦「はるか二条」面積 R2:3,630ha ⇒ R3:2,790ha ⇒ R4:2,580ha

大麦「はるしずく」面積 R2:1,490ha ⇒ R3:1,060ha ⇒ R4:1,000ha

・供給過剰となっている小麦「チクゴイズミ」は、作付面積が現状以上に増加しないよう誘導。

小麦「チクゴイズミ」面積 R2:5,070ha ⇒ R3:5,690ha ⇒ R4:5,240ha

・「シロガネコムギ」等需要のある品種は、作付面積が増加するよう誘導。

小麦「シロガネコムギ」面積 R2:5,340ha ⇒ R3:5,760ha ⇒ R4:6,200ha

小麦「ミナミノカオリ」面積 R2:1,730ha ⇒ R3:1,910ha ⇒ R4:1,850ha

小麦「ちくしW2号」面積 R2:1,840ha ⇒ R3:1,820ha ⇒ R4:1,820ha

・令和3年産における「チクゴイズミ」の作付産地は、大麦の作付けを減らすことを最優先し、大麦から小麦「チクゴイズミ」への転換を誘導。

・令和4年産以降は、県全体の「チクゴイズミ」の面積を増やさないようにするため、比較的地力の高い地域において、「チクゴイズミ」から「シロガネコムギ」への作付転換を誘導。

・「シロガネコムギ」の収量を確保するため、追肥量を増加するなどの栽培試験を実施しており、その試験結果をもとに、未作付地域への導入も検討する。

・硬質小麦は、実需者が求めるタンパク質含有率12%を確保するため、交付金等を活用し、肥料代の一部を補填することで追肥の徹底を図り、品質向上に努める。

・ちくしW2号は、上記の取組により実需が求めるタンパク質含有率12%を確保して需要を拡大させ、作付面積を拡大する。

〈大豆〉

・新品种「ちくしB5号」は「フクユタカ」に比べ播種適期幅が広く、多収で、加工適性や食味が優れることから、令和4年度からの本格導入を進め、地域に応じた安定栽培技術の確立や生産者への品種特性、栽培技術の周知を実施するとともに、実需者との意見交換により生産改善を図る。

##### ② 団地化の推進(麦、大豆)

・農地中間管理事業による担い手への農地の集積・集約化を進めるとともに、実質化された人・農地プランや県事業を活用し、米、麦、大豆等の団地化、ほ場の大区画化に向けた地域の話し合い等を支援する。

##### ③ 土づくり(麦、大豆)

・地力の回復に向け、堆肥等の有機物の投入、稲わら・麦わらの鋤き込み、土壌診断に基づく土壌改良資材の投入等を推進する。

##### ④ 乾燥対策(大豆のみ)

・播種後から生育初期まで乾燥害が出にくい部分浅耕—工程播種等の導入や土壌が白乾した際の畝間かん水など、土壌水分管理技術を推進する。

##### ⑤ 新たな需要の拡大

・他課と連携し、県産大麦を使った焼酎のPRや、地産地消の推進と併せて、直売所等での県産大麦の消費拡大キャンペーンを実施する。

※福岡県で開発した技術:部分浅耕—工程播種

部分浅耕—工程播種技術は、降雨後の多湿土壌条件下でも播種が可能で、播種後の降雨でも慣行播種よりも出芽、苗立ちが優れる。

大豆の生育、収量は、主茎長が長く、最下着莢高が高く、多雨年でも慣行播種より安定して優れる。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。

※ 都道府県等で開発した技術等に取り組む場合は本項目に技術名を記載すること。

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (2) 計画

##### ① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	シロガネコムギ	5,340	381	20,319	6,100	381	23,211	
	チクゴイズミ	5,070	348	17,654	5,380	348	18,733	ミスマッチ。R4年から作付面積を減らす
	ニシホナミ	720	353	2,544	800	353	2,827	
	ミナミノカオリ	1,730	389	6,727	2,400	389	9,332	
	ちくしW2号	1,840	363	6,684	2,400	363	8,718	
大麦	はるしずく	1,490	331	4,933	900	331	2,980	ミスマッチ、一定の需要があるため、一定の面積を残し品種転換
	はるか二条	3,630	354	12,844	2,300	354	8,138	ミスマッチ、小麦に転換
	ほうしゆん	1,040	232	2,408	300	232	695	はるさやかに転換
	しゆんれい	50	228	114	0	0	0	品種転換により作付なし
	はるさやか	60	257	154	850	257	2,182	品種転換により拡大
	くすもち二条	610	397	2,419	590	397	2,340	
裸麦	イチバンボシ	430	260	1,117	500	260	1,299	
作物計		22,010	354	77,917	22,520	357	80,454	

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和10年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	シロガネコムギ	5,760	478	27,514	6,850	478	32,721	
	チクゴイズミ	5,690	430	24,472	4,840	430	20,816	ミスマッチ。R4年から作付面積を減らす
	ニシホナミ	800	432	3,458	800	432	3,458	
	ミナミノカオリ	1,930	463	8,942	2,090	468	9,785	
	ちくしW2号	1,820	479	8,723	1,820	479	8,723	
大麦	はるしずく	1,060	378	4,011	940	378	3,557	ミスマッチ、一定の需要があるため、一定の面積を残し品種転換
	はるか二条	2,790	401	11,180	2,970	401	11,901	
	ほうしゆん	1,100	329	3,621	0	0	0	はるさやかに転換
	はるさやか	70	303	212	1,260	303	3,816	品種転換により拡大
	くすもち二条	770	345	2,656	350	345	1,207	
裸麦	イチバンボシ	480	318	1,528	400	340	1,358	
作物計		22,270	432	96,317	22,320	436	97,342	

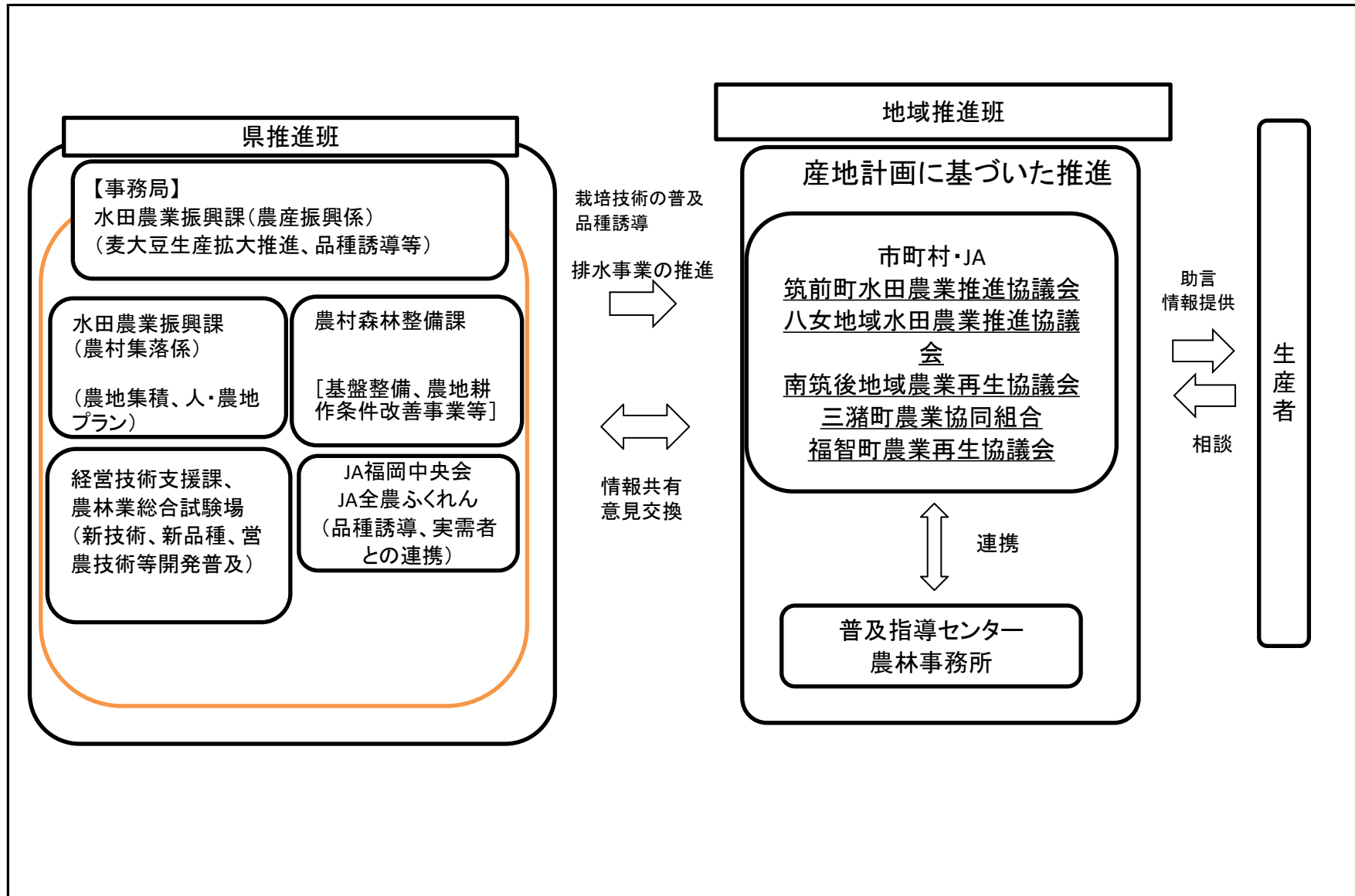
### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和8年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	フクユタカ	8220	125	10,300	0	0	0	
	ちくしB5号				8,500	200	17,000	
作物計		8220	125	10,300	8,500	200	17,000	

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	フクユタカ	8190	88	7,210	0	0	0	
	ちくしB5号				8,500	200	17,000	
作物計		8190	88	7,210	8,500	200	17,000	

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)
- ※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
- ※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
- ※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。
- ※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

## 4. 推進体制及び役割





## 5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	福岡県農林水産振興基本計画	令和4年3月	
2			
3			
<b>具体的連携内容</b>			
<p>本計画の実施に当たっては、県の農林水産振興基本計画に基づき、麦・大豆の作付推進と整合性を図るとともに生産者や市町村、JA等の関係者と連携し、推進する。</p> <p>特に、団地化の推進にあたっては、産地で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積された農地が、効果的に活用されるよう団地化を推進する</p>			

## 6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
<input type="radio"/>	水田麦大豆産地生産性向上事業	効率的播種技術、土壌診断に基づく施肥、小麦の生育後期重点施肥
<input type="radio"/>	農業競争力強化農地整備事業	糸島市(H30~R5)、大牟田市(R2~R7)、筑前町(H30~R4)、小郡市(R3~R7)
<input type="radio"/>	農地耕作条件改善事業	太刀洗町(R3~R4)、福智町(R3~R5)、久留米市(R1~R3)、柳川市(R2~R3)、大川市(R3~R5)、宗像市(R1~R3) 暗渠排水や水路整備
<input type="radio"/>	農地中間管理機構関連農地整備事業	柳川市(R2~R6)、区画整理

※県段階で想定している事業名について、記載願います。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	活用予定の事業
1	筑前町水田農業推進協議会	筑前町	水田麦大豆産地生産性向上事業
2	南筑後地域農業再生協議会	みやま市、大牟田市	水田麦大豆産地生産性向上事業
3	八女地域水田農業推進協議会	八女市	水田麦大豆産地生産性向上事業
4	三潴町農業協同組合	久留米市三潴町	水田麦大豆産地生産性向上事業
5	福智町農業再生協議会	福智町	水田麦大豆産地生産性向上事業

※ 各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付するものとする。

(別添2)

No.	1
策定年月	令和4年4月
見直し年月	令和 年 月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 筑前町 (作成主体:筑前町水田農業推進協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

筑前町は、全耕地面積に対して米・麦・大豆の作付け面積が約8割を占める土地利用型農業が盛んな水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少している状況を踏まえ、大豆の生産面積の拡大を図ると共に高収益作物への品目転換を推進していく必要がある。また、麦の実需を踏まえ高品質化を推進、生産力の強化を図る必要がある。

生産拡大を行うにあたっては、農業者の高齢化に伴い、1経営体の抱える作付面積に対し労働力が不足している状況も踏まえ、スマート農業を推進し効率化と省力化を図り生産面積の拡大を進める。

また、実需を踏まえたうえで関係機関と連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行し、単収の安定を実現する。併せて、米作から高収益作物への品目転換も推進する。

現在、筑前町においては、集落を単位としたブロックローテーションにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、高齢化に伴い、ブロックローテーションの継承が不安視されるため関係機関と連携し地域農業の更なる活性化を図っていくとともに、麦・大豆産地づくりを推進していく必要がある。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

筑前町で生産している麦・大豆については、ほぼ全量をJAを通じ県内の加工業者へ販売されているが、実需からの要望で高品質な品の安定供給を求められているが、天候の影響も受けやすくお互い納得のいく状況に至っていない。

麦については、高品質化及び増収を図るため、排水対策の徹底、生育後期の重点施肥等を推進、関係機関と連携し生産体制の強化に努める必要がある。大麦の過剰在庫が問題となっているため、大麦の作付面積を減少させる必要がある。

大豆については、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、早期播種の可能な品種への切り替えを図る必要がある。

### (2) 生産における現状と課題

近年、麦の作付面積は横ばい、大豆については増加傾向で推移しているが、単収は長期的に低下傾向となっている。

近年の収量低下の原因として、播種・収穫時期の降雨や地力の低下が考えられる。排水対策の改善を図るとともに、定期的な土壌診断の実施を推進し地力の回復を図る必要がある。

また、担い手不足による農地の集約が急速に進み、1経営体あたりの作業面積が拡大することにより、適期での播種・収穫の逸失等が起り、単収低下を引き起こしているため、スマート農業の導入による効率化・省力化が課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
裸麦	ダイシモチ	2	10	4	250	340	300	5	34	12
小麦	チクゴイシミ	1,046	1,012	965	376	472	345	3,935	4,777	3,333
	ちくしW2号	66	58	60	379	424	338	250	246	203
大麦	はるか2条	212	227	237	404	516	458	857	1,172	1,086
	ほうしゅん	385	391	0	209	367	0	805	1,435	0
	くすもち2条	0	6	425	0	500	384	0	30	1,630
作物計		1,711	1,704	1,691	342	452	370	5,852	7,694	6,264

作物名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)
大豆	683	662	692	150	180	150	1,025	1,192	1,038
作物計	683	662	692	150	180	150	1,025	1,192	1,038

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
麦	1,562.2	91.3%	1,562.2	91.7%	1,553.9	91.9%	
作物計	1,562.2	91.3%	1,562.2	91.7%	1,553.9	91.9%	

作物名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	540.5	79.1%	518.2	78.3%	554.7	80.2%	
作物計	540.5	79.1%	518.2	78.3%	554.7	80.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福岡県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

筑前町で生産している麦・大豆については、ほぼ全量をJAを通じ県内の加工業者へ販売されているが、実需からの要望で高品質な品の安定供給を求められているが、天候の影響も受けやすくお互い納得のいく状況に至っていない。

麦については、高品質化及び増収を図るため、排水対策の徹底、生育後期の重点施肥等を推進、関係機関と連携し生産体制の強化に努める必要がある。大麦の過剰在庫が問題となっているため、大麦の作付面積を減少させる必要がある。

大豆については、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、早期播種の可能な品種への切り替えを図る必要がある。

### (2) 生産における現状と課題

近年、麦の作付面積は横ばい、大豆については増加傾向で推移しているが、単収は長期的に低下傾向となっている。

近年の収量低下の原因として、播種・収穫時期の降雨や地力の低下が考えられる。排水対策の改善を図るとともに、定期的な土壌診断の実施を推進し地力の回復を図る必要がある。

また、担い手不足による農地の集約が急速に進み、1経営体あたりの作業面積が拡大することにより、適期での播種・収穫の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしているため、スマート農業の導入による効率化・省力化が課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
裸麦	ダイシモチ	2	10	4	250	340	300	5	34	12
小麦	チクゴイシミ	1,046	1,012	965	376	472	345	3,935	4,777	3,333
	ちくしW2号	66	58	60	379	424	338	250	246	203
大麦	はるか2条	212	227	237	404	516	458	857	1,172	1,086
	ほうしゅん	385	391	0	209	367	0	805	1,435	0
	くすもち2条	0	6	425	0	500	384	0	30	1,630
作物計		1,711	1,704	1,691	342	452	370	5,852	7,694	6,264

作物名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	683	662	692	150	180	150	1,025	1,192	1,038
作物計	683	662	692	150	180	150	1,025	1,192	1,038

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)



## ② 団地化

作物名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
麦	1,562.2	91.3%	1,562.2	91.7%	1,553.9	91.9%	
作物計	1,562.2	91.3%	1,562.2	91.7%	1,553.9	91.9%	

作物名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	540.5	79.1%	518.2	78.3%	554.7	80.2%	
作物計	540.5	79.1%	518.2	78.3%	554.7	80.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福岡県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (1) 取組方針

##### ① 需要に応じた生産と販売の実現

麦については、実需の求める高品質・安定供給を保つため生産体制を強化。そのために弾丸暗渠の徹底、高畝播種の推進を関係機関と連携し生産者へ呼びかける。大麦の過剰在庫が問題となっているため、大麦「はるか二条」を137ha減少させる。小麦「チクゴイズミ」もミスマッチの状況であるが、産地の麦作面積を維持していくため、「はるか二条」が減少した分は「チクゴイズミ」を増加させる。

大豆については、収量の安定を図るため適期播種・適期収穫を推進。早期播種可能な種子への切り替えを関係機関(普及事務所、JA、農林事務所等)と連携し、管理体制を構築し収量安定を図ると共に面積の拡大を行う。

##### ② 現在の団地化を維持したままでの担い手への継承

地域間の個人同士のつながりを活かし、営農集団から同一担い手農家への農地継承に向けた話し合いを実施することで高い団地化率を維持したまま農地の継承を実施する。併せて、より団地化率が向上するようブロックローテーション会議等で働きかける。

##### ③ 土づくり

近年の収量低下として考えられるのが地力の低下とされている。畑作大豆の作付頻度の増加もその要因の一つと考えられる。そのため、土壌改良資材の施用、堆肥の投入を進言し、弾丸暗渠等の排水対策を導入し土づくりを進める。

##### ④ 排水改良

本町では平成27年から暗渠排水事業に取り組んでおり、すでに54ha分が完了している。現在も国庫補助を活用し暗渠排水事業を行っている。令和5年度に現在の計画は終了し、総計180haが完了予定である。また、県単事業などを活用しながら今回の事業外の農地の排水対策を推進する。併せて麦の播種前には弾丸暗渠排水を行うことを指導、これを推進する。

(2) 計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
裸麦	ダイモチ	4	300	12	4	330	13	
小麦	チゴイスミ	965	345	3,333	1102	380	4,188	ミスマッチ
	ちくしW2号	60	338	203	60	375	223	
大麦	はるか2条	237	458	1,086	100	505	505	ミスマッチ
	くすもち2条	425	384	1,630	425	420	1,793	
作物計		1,691	370	6,264	1,691	398	6,722	

作物名	令和元年産(現状)			令和8年産(目標)			備考	
	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)		
大豆	692	150	1,038	733	150	1,099		
作物計		692	150	1038	733	150	1099	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

## ② 団地化

作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
裸麦	ダイモチ	0.0	0.00%	0.0	0.00%	
小麦	チゴイスミ	733.7	76.03%	848.9	77.03%	
	ちくしW2号	0.0	0.00%	0.0	0.00%	
大麦	はるか2条	107.0	45.17%	46.2	46.20%	
	くすもち2条	269.2	63.36%	273.5	64.36%	
作物計		1,109.9	65.6%	1,168.6	69.1%	

作物名	令和元年産(現状)		令和8年産(目標)		備考	
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)		
大豆	554.7	80.15%	609.5	83.15%		
作物計		554.7	80.15%	609.5	83.15%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

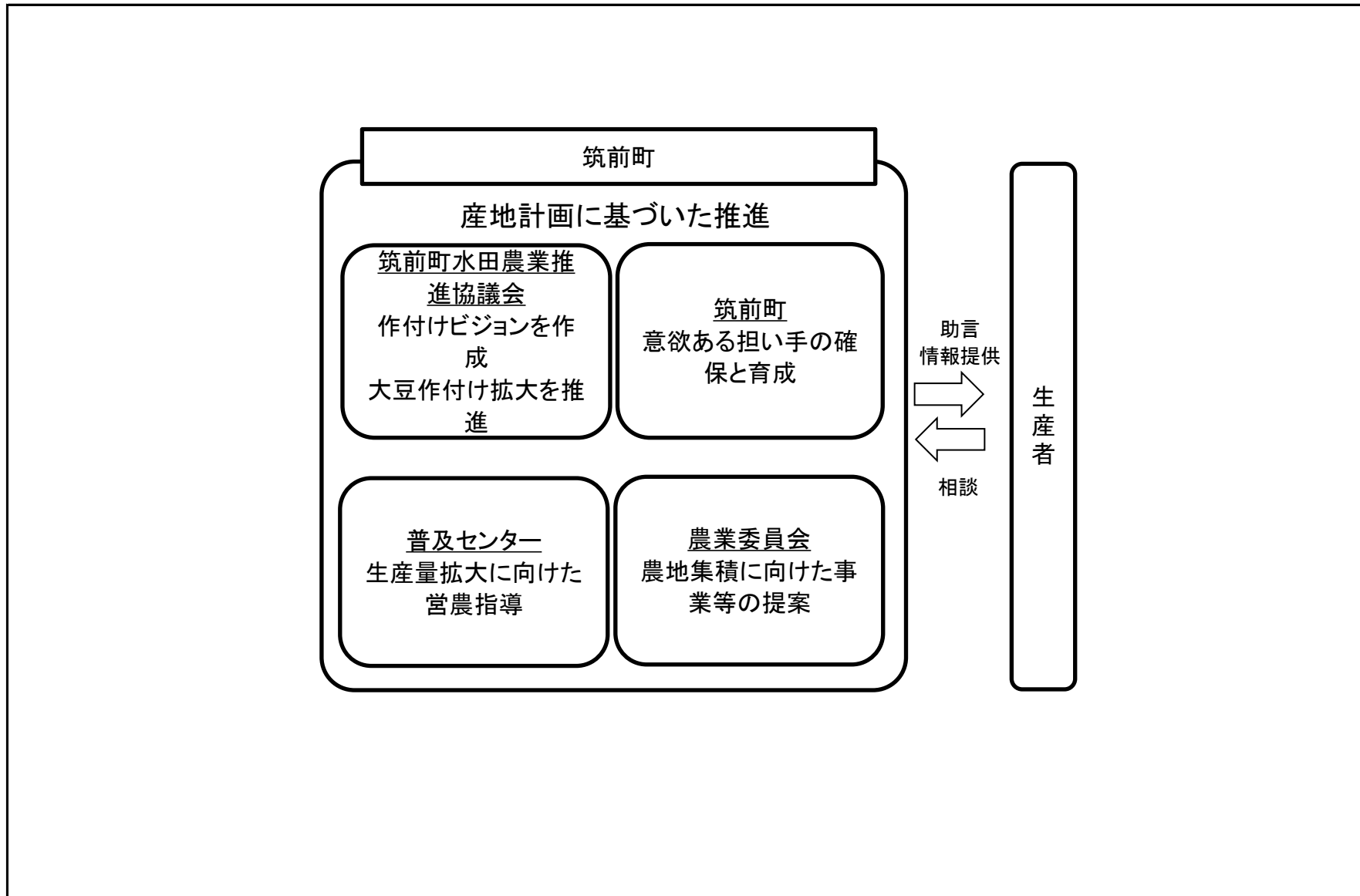
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

※ 品種ごとの記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

#### 4. 推進体制及び役割



## 5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	人・農地プラン	実施化に向け現在見直し中	令和4年3月末までに作成予定
2	水田収益力強化ビジョン	実施化に向け現在作成中	令和3年6月末までに作成予定
3			
<b>具体的連携内容</b> <p>本計画の実施に当たっては、県水田協議会の作成する県作付ビジョンに基づく大豆の推進との整合を図るとともに、本計画の内容を、毎年作成する地域の作付ビジョンに反映させることとする。            特に、団地化の推進にあたっては、筑前町で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積された農地が、効果的に活用されるよう団地化を推進する。</p>			

## 6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	湿害対策技術、効率的播種技術等営農技術、土壌診断に基づく土づくり、小麦の生育後期重点施肥を導入する。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

(別添 2)

No.	2
策定年月	令和4年4月
見直し年月	令和 年 月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 南筑後産地 (作成主体:南筑後地域農業再生協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

みやま市と大牟田市からなる南筑後地域は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約54%を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、単収の安定の実現を目指す。

現在、南筑後地域においては、水田フル活用ビジョン、第6次地域農業振興計画により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦について、南筑後地域では大麦のはるしづく、小麦のシロガネコムギ、ミナミノカオリが作付けされており、全量(約7,400トン)が食用として、県内外の製粉企業に販売されている。近年麦の情勢は豊作状態であり、販売面で苦戦している状況である。特に大麦に関しては販売状況が苦戦しており、当産地のはるしづくについても、実需の要望を踏まえ、約280ha程度を供給が不足しているシロガネコムギ等へ切り替える必要がある。

大豆については、全量フクユタカを生産しており、県内外に出荷し豆乳、豆腐、納豆等加工され販売されている。近年大豆の情勢は、気象的要因や湿害等による収量の低下で安定供給が達成できていない。市場における福岡県産大豆の需要は高く、取引額も高騰している。安定した供給を達成していくことが産地には求められている。

### (2) 生産における現状と課題

麦に関しては近年豊作だが、引き続き適期播種、排水対策、土壌改良剤の投入を基本として収量向上に取り組む必要がある。

大豆に関しては気象的要因や地力の低下等により単収は低下傾向である。地力の低下に対しては土壌診断に基づく土壌改良剤の投入が必要である。排水対策としては、弾丸暗渠等を実施し湿害を防いでいく必要がある。また、部分浅耕播種や狭畦密植栽培といった効果的播種技術の導入により、大豆の生産性を高めていく必要がある。これらの生産性を高める取り組みにおいては、機械の導入も必要である。補助事業や農業者制度資金等を有効に活用しつつ機械導入を推進する。団地化に取り組むことで生産性向上を図る。



### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	850	793	790	339	428	388	2,881	3,394	3,065
	ミナミノカオリ	270	233	263	343	427	363	926	994	954
大麦	はるしずく	937	929	1,014	281	342	333	2,632	3,177	3,376
作物計		2,057	1,955	2,067	313	387	358	6,439	7,565	7,395

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	フクユタカ	808	762	720	147	90	111	1,187	685	799
作物計		808	762	720	147	90	111	1,187	685	799

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムギ	187	22.0%	179	22.6%	201	25.4%	
	ミナミノカオリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	本品種のための4ha以上の団地はない
大麦	はるしずく	560	59.8%	618	66.5%	603	59.5%	
作物計		747	36.3%	797	40.8%	804	38.9%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	149	18.4%	121	15.9%	111	15.4%	
作物計		149	18.4%	121	15.9%	111	15.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

団地の定義は、機構集積協力金交付事業における「まとまりのある団地」の定義に準ずる。  
団地の基準面積は4ha以上とする。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦について、南筑後地域では大麦のはるしずく、小麦のシロガネコムギ、ミナミノカオリが作付けされており、全量（約7,400トン）が食用として、県内外の製粉企業に販売されている。近年麦の情勢は豊作状態であり、販売面で苦戦している状況である。特に大麦に関しては販売状況が苦戦しており、当産地のはるしずくについても、実需の要望を踏まえ、約280ha程度を供給が不足しているシロガネコムギ等へ切り替える必要がある。

大豆については、全量フクユタカを生産しており、県内外に出荷し豆乳、豆腐、納豆等に加工され販売されている。近年大豆の情勢は、気象的要因や湿害等による収量の低下で安定供給が達成できていない。市場における福岡県産大豆の需要は高く、取引額も高騰している。安定した供給を達成していくことが産地には求められている。

### (2) 生産における現状と課題

麦に関しては近年豊作だが、引き続き適期播種、排水対策、土壌改良剤の投入を基本として収量向上に取り組む必要がある。

大豆に関しては気象的要因や地力の低下等により単収は低下傾向である。地力の低下に対しては土壌診断に基づく土壌改良剤の投入が必要である。排水対策としては、弾丸暗渠等を実施し湿害を防いでいく必要がある。また、部分浅耕播種や狭畦密植栽培といった効果的播種技術の導入により、大豆の生産性を高めていく必要がある。これらの生産性を高める取り組みにおいては、機械の導入も必要である。補助事業や農業者制度資金等を有効に活用しつつ機械導入を推進する。団地化に取り組むことで生産性向上を図る。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	850	793	790	339	428	388	2,881	3,394	3,065
	ミナミノカオリ	270	233	263	343	427	363	926	994	954
大麦	はるしずく	937	929	1,014	281	342	333	2,632	3,177	3,376
作物計		2,057	1,955	2,067	313	387	358	6,439	7,565	7,395

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	フクユタカ	808	762	720	147	90	111	1,187	685	799
作物計		808	762	720	147	90	111	1,187	685	799

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムギ	187	22.0%	179	22.6%	201	25.4%	
	ミナミノカオリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	本品種のみ4ha以上の団地はない
大麦	はるしずく	560	59.8%	618	66.5%	603	59.5%	
作物計		747	36.3%	797	40.8%	804	38.9%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	149	18.4%	121	15.9%	111	15.4%	
作物計		149	18.4%	121	15.9%	111	15.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

団地の定義は、機構集積協力金交付事業における「まとまりのある団地」の定義に準ずる。  
団地の基準面積は4ha以上とする。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (1)取組方針

##### ①需要に応じた生産と販売の実現

麦については、大麦の販売面で苦戦をしている実需の状況を考慮し、大麦と小麦の作付けの配分について、令和3年産の50%対50%から、令和4年産以降段階的に35%対65%へ切り替えることにより、ミスマッチを解消する。大豆については、実需から必要とされているフクユタカは、市場の需要量が現在の供給量を大きく上回っている。南筑後は全量フクユタカを生産しているものの、安定供給が出来ていないため、供給量の面で実需とのミスマッチが大きく生じている。フクユタカの生産量を上げること、毎年の安定供給を実現することが求められており、大豆の生産性向上を目指していく。

##### ②団地化の推進

人・農地プランや農地中間管理事業による農地の集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを実施し、土壌・排水条件・作業の効率化等に配慮した団地化に向けた計画を産地において作成する。

##### ③土づくり

土壌に起因する低収要因の改善に向けて、麦・大豆を作付けするほ場の土壌診断を行う。その結果に基づき酸度調整や不足している窒素、リン、カリウム等を補う土壌改良剤の投入を実施する。

##### ④排水改良

排水の改善に向けては、弾丸暗渠等を実施し排水能力をさらに高めるよう努める。JAの大豆指導員や普及指導センター等の専門機関の指導を仰ぎながら的確な排水対策を行う。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること

## (2)計画

### ① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	シロガネコムギ	790	388	3,065	1,000	390	3,900	
	ミナミノカオリ	263	363	954	365	370	1,351	
大麦	はるしずく	1,014	333	3,376	735	340	2,499	ミスマッチ
作物計		2,067	-	7,395	2,100	-	7,750	

作物名	品種名	令和元年産(現状)			令和8年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	フクユタカ	720	111	799	800	180	1,440	
作物計		720	111	799	800	180	1,440	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

## ② 団地化

作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムギ	201	25.4%	350	35.0%	
	ミナミノカオリ	0	0.0%	20	5.5%	
大麦	はるしずく	603	59.5%	450	61.2%	
作物計		804	38.9%	820	39.0%	

作物名	品種名	令和元年産(現状)		令和8年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	111	15.4%	200	25.0%	
作物計		111	15.4%	200	25.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

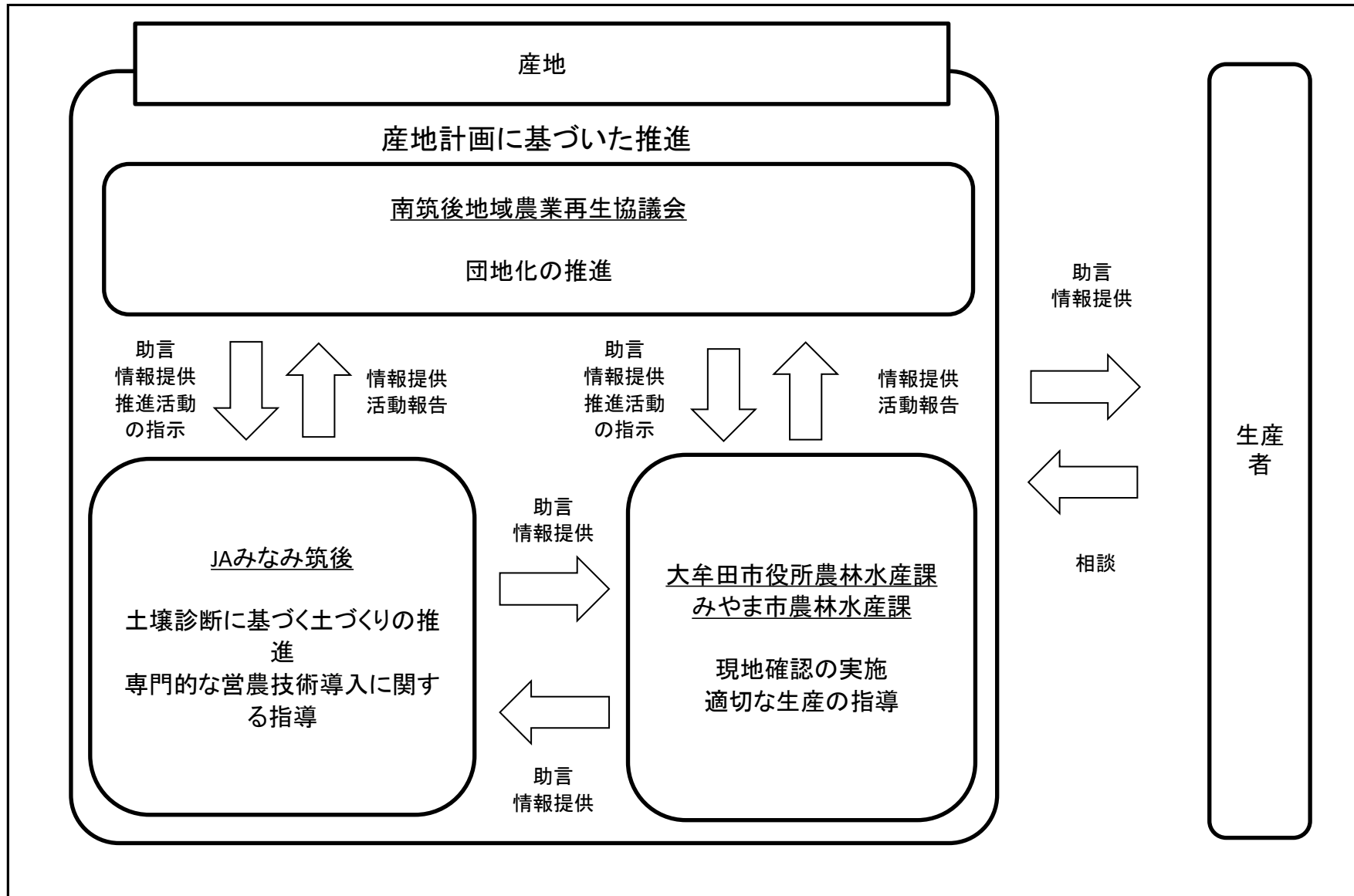
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。



#### 4. 推進体制及び役割



## 5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	人・農地プラン	令和3年度に実質化する	
2			
3			
<b>具体的連携内容</b> 本計画の実施に当たっては、実質化された人・農地プランの推進との整合を図るとともに、計画に反映させることとする。特に、団地化の推進にあたっては、産地で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積された農地が、効果的に活用されるよう団地化を推進する。 具体的には、麦・大豆増産に取り組む地域は、人・農地プランにおいても、作成時・見直し時に麦・大豆の増産に係る内容を盛り込み、作物の団地化も考慮しプランを作成することとする。			

## 6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
-	水田農業担い手機械導入支援事業	当該事業により全麦・大豆作付けに係る機械導入を行う。
-	強い農業担い手づくり総合支援交付金	当該事業により全麦・大豆作付けに係る機械導入を行う。
○	水田麦大豆産地生産性向上事業	効率的播種技術、土壌診断に基づく土づくり等

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

(別添2)

No.	3
策定年月	令和4年4月
見直し年月	令和 年 月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 八女産地 (作成主体:八女地域水田農業推進協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

八女市(旧八女市)は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約5割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手組織への農地の集積を行っているが、構成員の高齢化や地力の低下が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需者と密接に連携し、実需者の要望に対応した品種への誘導を行っていくとともに、単収の安定を実現する。

現在、八女市(旧八女市)においては、水田フル活用ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種はるか二条は、全量が焼酎・押し麦用等として、県内の企業に販売されているが、実需からの要望に対して生産量が上回り減産を図る必要がある。一方で、シロガネコムギについては、県内外の製粉企業へと販売されているが、実需の要望が生産量に満たないことから、実需の要望に応えるため、5年間で約15haを「はるか二条」からシロガネコムギに段階的に切り替えを図っていく必要がある。

・大豆については、生産の9割を占める品種フクユタカは、JA全農ふくれんを通じて主に全国の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、気象条件の不安定さや地力の低下により安定供給が達成できておらず、排水対策や土づくりの推進により収量の増加が喫緊の課題となっている。

### (2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦については横ばい、大豆については減少傾向で推移しており、単収は長期的に低下傾向となっている。

単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や有機資材、土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進む中、高齢化や適期作業の逸失等により単収低下を引き起こしている。

よって、効率的な技術の導入や積極的な土づくり資材の投入、作付の団地化等の推進が喫緊の課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	225	201	214	233	335	271	524	673	580
大麦	はるか二条	65	68	70	215	327	420	140	222	294
作物計		290	269	284	229	333	308	664	896	874

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	フクユタカ	85	76	77	180	86	145	153	65	112
作物計		85	76	77	180	86	145	153	65	112

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムギ	22	9.8%	20	10.0%	21	9.8%	
大麦	はるか二条	7	10.8%	7	10.3%	7	10.0%	
作物計		29	10.0%	27	10.0%	28	9.9%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	6	7.1%	6	7.9%	6	7.7%	
作物計		6	7.1%	6	7.9%	6	7.7%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

八女地区において、4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地(田)を同地区の作付面積で除した値を団地化率として算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種はるか二条は、全量が焼酎・押し麦用等として、県内の企業に販売されているが、実需からの要望に対して生産量が上回り減産を図る必要がある。一方で、シロガネコムギについては、県内外の製粉企業へと販売されているが、実需の要望が生産量に満たないことから、実需の要望に応えるため、5年間で約15haを「はるか二条」からシロガネコムギに段階的に切り替えを図っていく必要がある。

・大豆については、生産の9割を占める品種フクユタカは、JA全農ふくれんを通じて主に全国の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、気象条件の不安定さや地力の低下により安定供給が達成できておらず、排水対策や土づくりの推進により収量の増加が喫緊の課題となっている。

### (2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦については横ばい、大豆については減少傾向で推移しており、単収は長期的に低下傾向となっている。

単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や有機資材、土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進む中、高齢化や適期作業の逸失等により単収低下を引き起こしている。

よって、効率的な技術の導入や積極的な土づくり資材の投入、作付の団地化等の推進が喫緊の課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	225	201	214	233	335	271	524	673	580
大麦	はるか二条	65	68	70	215	327	420	140	222	294
作物計		290	269	284	229	333	308	664	896	874

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	フクユタカ	85	76	77	180	86	145	153	65	112
作物計		85	76	77	180	86	145	153	65	112

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）



## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムキ	22	9.8%	20	10.0%	21	9.8%	
大麦	はるか二条	7	10.8%	7	10.3%	7	10.0%	
作物計		29	10.0%	27	10.0%	28	9.9%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	6	7.1%	6	7.9%	6	7.7%	
作物計		6	7.1%	6	7.9%	6	7.7%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

八女地区において、4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地(田)を同地区の作付面積で除した値を団地化率として算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (1) 取組方針

##### ① 需要に応じた生産と販売の実現

麦については、県内の実需と連携し小麦のシロガネコムギについて、主に麺用として5年間で約160トンの増産を図るとともに、はるか二条については、実需者の要望に応えるため5年間で約15ha(生産量見込約60トン)をシロガネコムギへ切り替えることにより、ミスマッチを解消する。大豆については、収量・品質の高い品種(ちくしB5号)への5年後の切り替えを目指し、研究機関・実需者・生産者による栽培・加工適性評価を進める。

##### ② 団地化の推進

人・農地プランによる農地の集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを実施し、土壌・排水条件・作業の効率化等に配慮した団地化に向けた計画を産地において作成する。

##### ③ 土づくり

土壌に起因する低収要因の改善に向けて、麦・大豆を作付けする全ほ場の土壌診断と、その結果に基づく施肥等の土づくりに向けた取組を3年間で実施する。

##### ④ 排水改良

排水の改善に向けては、弾丸暗渠等の全面導入に向けて、積極的な働きかけを行う。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること

## (2) 計画

### ① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	シロガネコムギ	214	271	580	246	300	738	
大麦	はるか二条	70	420	294	55	430	237	ミスマッチ
作物計		284	308	874	301	324	975	

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和8年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	フクユタカ	77	145	112				
	ちくしB5号				82	200	164	
作物計		77	145	112	82	200	164	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

## ② 団地化

作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムギ	21	9.8%	25	10.2%	
大麦	はるか二条	7	10.0%	6	10.9%	
作物計		28	9.9%	31	10.3%	

作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和8年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	6	7.7%			
	ちくしB5号			8.8	10.7%	
作物計		6	7.7%	8.8	10.7%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

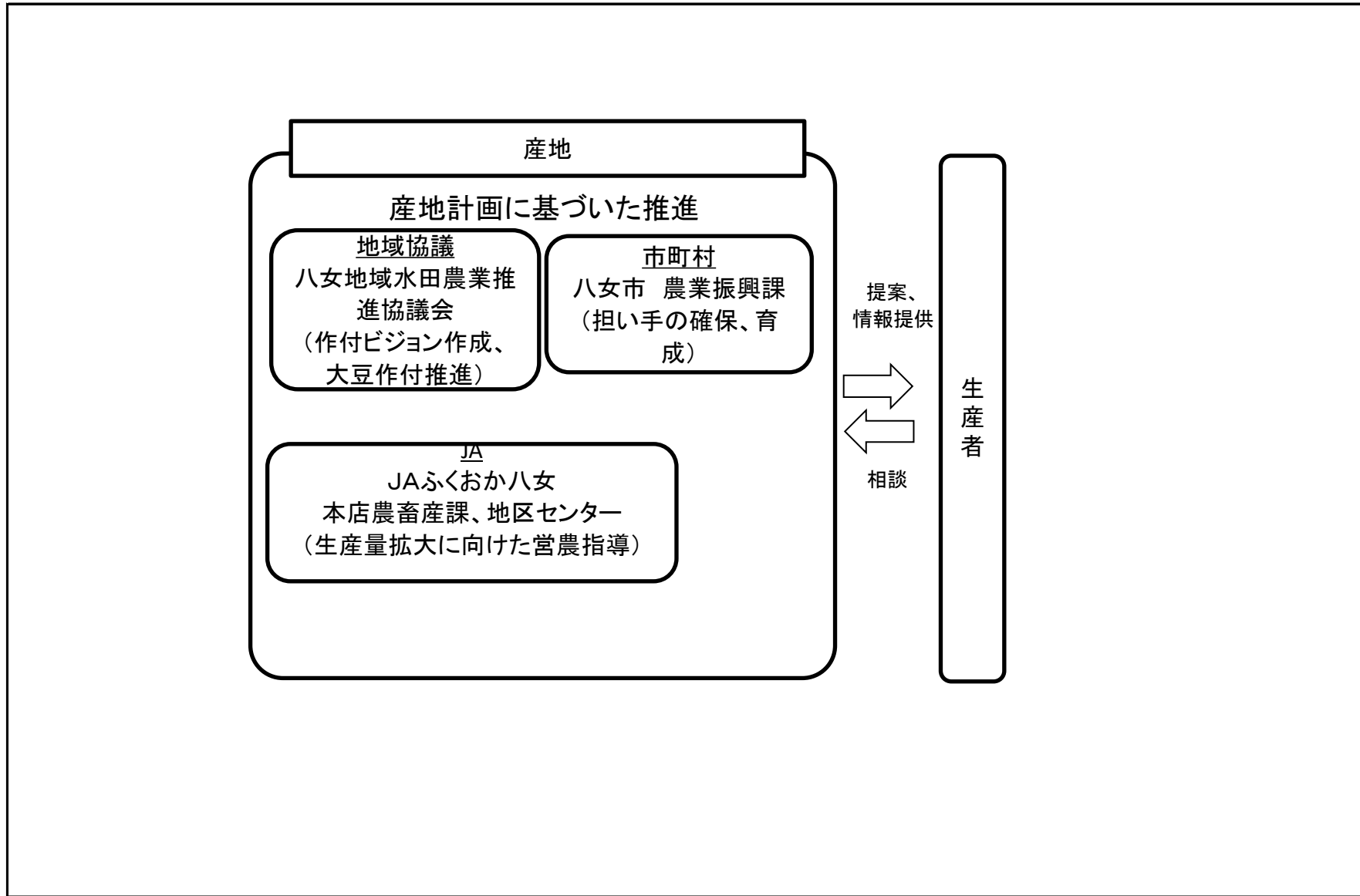
※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

#### 4. 推進体制及び役割



## 5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	八女地域水田フル活用ビジョン	毎年作成	
2	人・農地プラン	令和3年3月12日実質化	
3			
<b>具体的連携内容</b> 経営所得安定対策事業に基づき作成する八女地域水田フル活用ビジョンにおいても、大豆の団地化について助成・推進を行い、人・農地プランによる農地の集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを実施し、土壌・排水条件・作業の効率化等に配慮した団地化に向けた計画を産地において作成する。また団地化区域図を作成し団地化状況の把握に努める。			

## 6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	土壌診断に基づく、土づくり技術の導入を行う。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

(別添 2)

No.	4
策定年月	令和3年8月
見直し年月	令和 年 月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 久留米市三漕町 (作成主体:三漕町農業協同組合)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

三漕町は、米・麦・大豆の作付けが多くを占める土地利用型農業の盛んな地域であると同時に、タマネギ、いちご、レタスなどの栽培も盛んである。

主食用米の国内需要が減少している状況を踏まえ、高収益作物や大豆の面積拡大を図るとともに、麦の高品質化・生産性向上を図る必要がある。

近年、西日本地区の麦類の豊作、コロナ禍におけるマーケットの縮小に伴い、特に大粒大麦について実需者が過剰在庫を抱えており、福岡県全体においても令和3年産より大麦から小麦へ麦種転換が行われている。

しかしながら、県北JAを中心に小麦品種「チクゴイズミ」への品種転換が増加して「チクゴイズミ」も供給過剰となっており、小麦実需者からは「シロガネコムギ」への品種転換を強く要望されている。

このため三漕町では、実需者の要請に沿って従来の主力品種「チクゴイズミ」から「シロガネコムギ」を導入、品種転換することにより、麦の安定供給と生産力強化を図り、農家所得の向上を推進する。

大豆については、適地での作付を前提に、実需者の評価が高く収量の高い品種の導入や土壌改良資材の投入による地力向上、団地化の推進によって収量の安定・向上を図りながら、営農組織等の担い手による効率的な生産を推進する。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

三瀨町では、麦について、裸麦・大麦・小麦の作付があるが、農作業の分散を目的に農業者が作付けしているため、団地化が進んでいないのが現状である。また、近年の麦の豊作により実需者からは需要のある品種への転換が求められている。

団地化推進による作業効率向上と、需要に応じた品種への誘導を行うことで、麦の生産力の強化と農業者の生産意欲向上を図る必要がある。

大豆については、主に九州の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、気象条件の影響による単収低下により需要に応じた安定生産ができず、実需者からは安定した数量・価格での供給が求められている。

### (2) 生産における現状と課題

麦について、生産者の高齢化や後継者不足が進み、麦類を作付けする生産者が少なくなっている。一方、1経営体当たりの麦作付け面積が増加傾向にあり、一部では降雨等の影響で適期作業ができずに単収低下を引き起こす状況にあることから、高性能作業機械の導入や部分浅耕播種技術の導入のほか、団地化を推進することで作業効率を向上させることが必要。

大豆については、近年の長梅雨や集中豪雨等の災害で、播種や中間管理作業を適期に出来ず単収が低下し、生産者の大豆に対する生産意欲は下がっている。また、難防除雑草(アサガオ・ホオズキ)の駆除が困難なほ場が散見され、大豆の作付け面積は減少傾向にある。このため、早期播種が可能な品種の導入、降雨後や乾燥条件でも発芽が安定する部分浅耕播種技術の普及を推進するほか、総合的雑草防除体系の実証・普及が必要。



### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
裸麦	イチバンボシ	79	107	107	344	420	388	272	449	415
	ダイシモチ	42	23	28	300	270	346	126	62	97
大麦	はるしずく	156	167	165	313	382	398	488	638	656
	くすもち二条	0	0	23	0	0	209	0	0	48
小麦	チクゴイズミ	421	392	384	357	422	379	1,503	1,656	1,456
	シロガネコムギ	14	16	12	293	363	192	41	58	23
作物計		712	705	719	341	406	375	2430	2863	2695

作物名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	237	239	215	150	99	129	355	237	277
作物計	237	239	215	150	99	129	355	237	277

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
裸麦	イチバンボシ	4	5.1%	4	3.7%	4	3.7%	
	ダイシモチ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
大麦	はるしずく	4	2.6%	4	2.4%	4	2.4%	
	くすもち二条	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
小麦	チクゴイズミ	36	8.6%	36	9.2%	36	9.4%	
	シロガネコムギ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		44	6.2%	44	6.2%	44	6.1%	

作物名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	64	27.0%	64	26.8%	64	29.8%	
作物計	64	27.0%	64	26.8%	64	29.8%	

- ※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。
- ※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福岡県における団地基準(4ha以上の同一作物の作付け)で計算している

- ※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。
- ※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

三瀨町では、麦について、裸麦・大麦・小麦の作付があるが、農作業の分散を目的に農業者が作付けしているため、団地化が進んでいないのが現状である。また、近年の麦の豊作により実需者からは需要のある品種への転換が求められている。

団地化推進による作業効率向上と、需要に応じた品種への誘導を行うことで、麦の生産力の強化と農業者の生産意欲向上を図る必要がある。

大豆については、主に九州の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、気象条件の影響による単収低下により需要に応じた安定生産ができず、実需者からは安定した数量・価格での供給が求められている。

### (2) 生産における現状と課題

麦について、生産者の高齢化や後継者不足が進み、麦類を作付けする生産者が少なくなっている。一方、1経営体当たりの麦作付け面積が増加傾向にあり、一部では降雨等の影響で適期作業ができずに単収低下を引き起こす状況にあることから、高性能作業機械の導入や部分浅耕播種技術の導入のほか、団地化を推進することで作業効率を向上させることが必要。

大豆については、近年の長梅雨や集中豪雨等の災害で、播種や中間管理作業を適期に出来ず単収が低下し、生産者の大豆に対する生産意欲は下がっている。また、難防除雑草(アサガオ・ホオズキ)の駆除が困難なほ場が散見され、大豆の作付け面積は減少傾向にある。このため、早期播種が可能な品種の導入、降雨後や乾燥条件でも発芽が安定する部分浅耕播種技術の普及を推進するほか、総合的雑草防除体系の実証・普及が必要。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
裸麦	イチバンボシ	79	107	107	344	420	388	272	449	415
	ダイシモチ	42	23	28	300	270	346	126	62	97
大麦	はるしづく	156	167	165	313	382	398	488	638	656
	くすもち二条	0	0	23	0	0	209	0	0	48
小麦	チクゴイズミ	421	392	384	357	422	379	1,503	1,656	1,456
	シロガネコムギ	14	16	12	293	363	192	41	58	23
作物計		712	705	719	341	406	375	2430	2863	2695

作物名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	237	239	215	150	99	129	355	237	277
作物計	237	239	215	150	99	129	355	237	277

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
裸麦	イチバンボシ	4	5.1%	4	3.7%	4	3.7%	
	ダイシモチ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
大麦	はるしずく	4	2.6%	4	2.4%	4	2.4%	
	くすもち二条	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
小麦	チクゴイズミ	36	8.6%	36	9.2%	36	9.4%	
	シロガネコムギ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		44	6.2%	44	6.2%	44	6.1%	

作物名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	64	27.0%	64	26.8%	64	29.8%	
作物計	64	27.0%	64	26.8%	64	29.8%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福岡県における団地基準(4ha以上の同一作物の作付け)で計算している

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (1) 取組方針

##### ① 需要に応じた生産と販売の実現

麦については、水田収益力強化ビジョン及び県の喜ばれる「福岡の麦」づくり運動の目標に沿って、麦作付けを行っているが、近年、大麦の過剰在庫や小麦(チクゴイズミ)のミスマッチの状況が問題となっている。そこで、需要に応じた麦づくりの推進のため、令和4年産からチクゴイズミ(約380ha)や大麦の一部(はるしづく40ha)を実需者の購入希望数量が販売予定数量を上回っている(逆ミスマッチ)シロガネコムギへ品種転換する。また、施肥体系をタンパク含有量の向上を目的とした生育後期重点施肥に変更することにより、実需者が求める高品質麦の生産に取り組む。大豆については、収量の安定を図るため適期播種・適期収穫を推進。早期播種可能な品種への切り替えを関係機関(普及事務所、JA、農林事務所等)と連携し、管理体制を構築し収量安定を図るとともに面積の拡大を行う。

##### ② 麦・大豆の団地化推進

麦・大豆については、団地化が十分出来ていない状況であるため、各集落等で説明会を開催し、団地化による作業効率化等の効果面について説明を行い、農業者の理解を得ながら団地化の推進を図る。団地化を進めるに当たっては、高性能作業機械の導入支援による生産性の向上、作業の省力化を図り、担い手の所得向上につなげる。

##### ③ 雑草対策

大豆について、圃場における除草作業の軽減を目的とした新しい農薬の導入や試験を行い、雑草対策を確立・普及することにより、生産者の大豆生産意欲を向上させる。

##### ④ 効率的播種技術等

適期播種を狙った部分浅耕播種技術の実証試験を実施し、麦・大豆収量を向上安定させ、生産意欲の向上・作付け面積の拡大を図る。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

## (2)計画

### ① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
裸麦	イチバンボシ	107	388	415	102	392	400	
	ダイシモチ	28	346	97	28	357	100	
大麦	はるしずく	165	398	656	125	400	500	ミスマッチ
	くすもち二条	23	209	48	23	217	50	
小麦	チクゴイズミ	384	379	1,456	0	0	0	ミスマッチ、品種 転換により作付 なし
	シロガネコムギ	12	192	23	441	385	1,700	
作物計		719	375	2,695	719	382	2,750	

作物名	令和2年産(現状)			令和8年産(目標)			備考
	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	215	129	277	223	180	400	
作物計	215	129	277	223	180	400	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

## ② 団地化

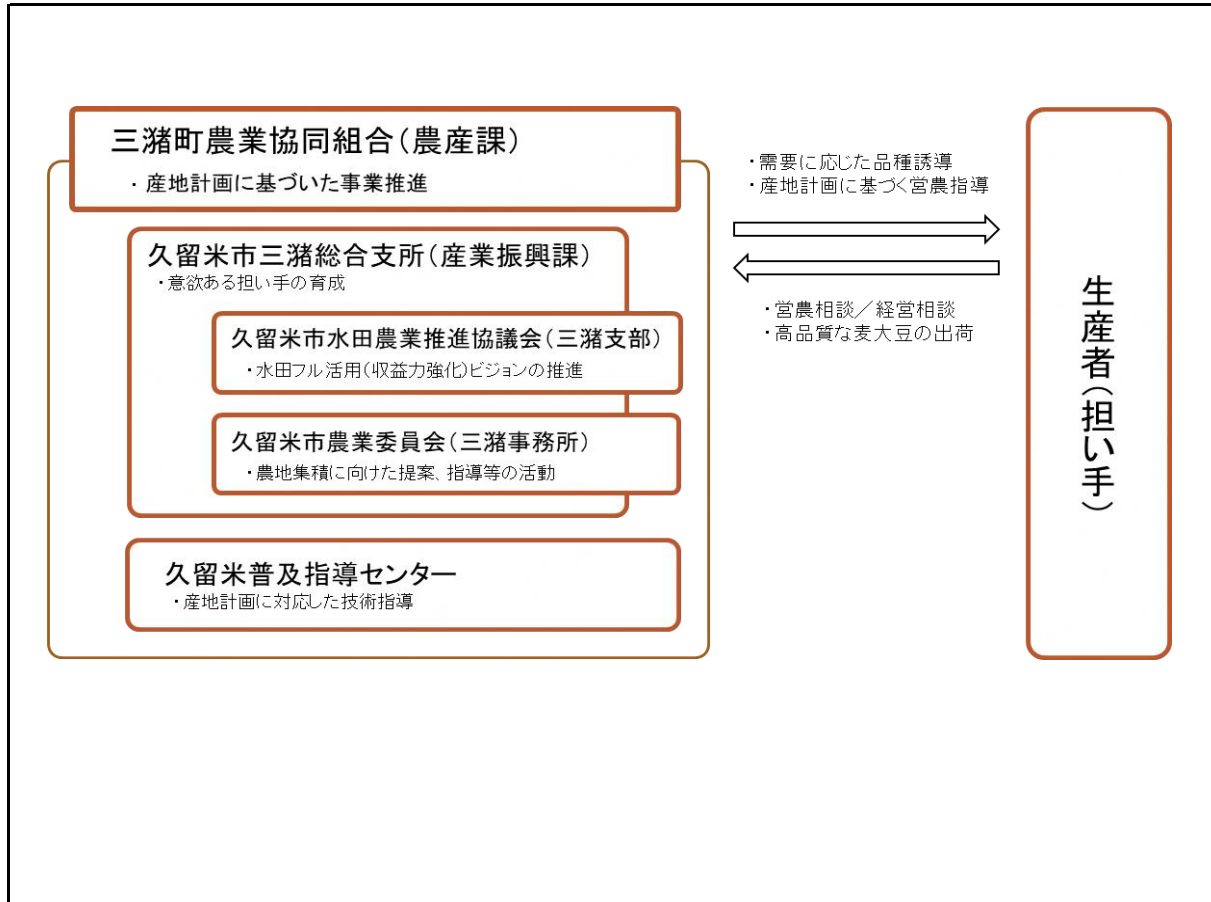
作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
裸麦	イチバンボシ	4	3.7%	10	9.8%	
	ダイシモチ	0	0.0%	0	0.0%	
大麦	はるしづく	4	2.4%	15	12.0%	
	くすもち二条	0	0.0%	0	0.0%	
小麦	チクゴイズミ	36	9.4%	0	0.0%	品種転換により 作付けなし
	シロガネコムギ	0	0.0%	90	20.4%	
作物計		44	6.1%	115	16.0%	

作物名	令和2年産(現状)		令和8年産(目標)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	64	29.8%	90	40.4%	
作物計	64	29.8%	90	40.4%	

- ※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。
- ※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。
- ※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)
- ※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。
- ※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。



## 4. 推進体制及び役割



## 5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	人・農地プラン	R3年3月実質化	
2	水田収益力強化ビジョン	R3年6月作成	
3			
具体的連携内容			
<p>本産地計画に関する取組み実施に際しては、経営所得安定対策事業に基づき作成する水田収益力強化ビジョンにおいても、麦の団地化について推進を行う。また人・農地プランにおける農地集積の推進と連携しつつ、麦の団地化に向けた話し合いを実施し、団地化状況の把握にも努める。</p>			

## 6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦大豆産地生産性向上事業	麦・大豆の作付け団地化推進、小麦品種転換

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

(別添 2)

No.	5
策定年月	令和4年4月
見直し年月	令和 年 月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 田川郡福智町 (作成主体:福智町農業再生協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

福智町管内は、水田地域であり、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、飼料用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産拡大を図っている。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への農地の集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的な播種技術(部分浅耕一工程播種)の導入やドローンによる病害虫防除等による効率的な作業体系の推進を図る。

また、大豆については、「フクユタカ」から、播種適期幅が広く、早播きが可能で収量性の高い新品種「ちくしB5号」への全面転換を推進し、実需者の求める高品質・安定供給の実現を目指す。

現在、福智町においては、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

#### 〈麦〉

・本地域で生産している主な品種チクゴイズミは、主にうどん用として県内の製粉企業に販売されており、一定の需要が見込める品種であるが、近年の豊作により県全体では供給量が需要量を上回っている状況である。一方で、生産物の主な出荷先である田川農業協同組合は、排水対策不足、一部地域の播種の遅れ等により近年、チクゴイズミの生産目標数量を達成できていないため、安定的な生産により、目標数量達成を図る必要がある。

#### 〈大豆〉

・本地域で生産されている「フクユタカ」は、全国の豆腐・豆乳企業に高く評価され、販売されているが、近年、播種時期の大雨等の影響から作柄が不安定となっており、実需者が求める安定供給を達成できていない。

### (2) 生産における現状と課題

#### 〈麦〉

・作付面積は横ばい、単収は年次変動が大きく不安定となっている。  
・近年、担い手への農地集約が進み、1農家あたりの作業面積が拡大したことにより、適期作業を逸しており、単収低下の要因となっていることから、効率的な播種技術(部分浅耕—工程播種)の導入や作付の団地化等の推進を図り作業効率を高めることが必要。

#### 〈大豆〉

・作付面積は横ばい、単収は天候の影響により変動するものの低下傾向。  
・収量の低下要因として、大豆作付頻度の増加に伴う地力の低下、播種時期の大雨による播種の遅れ、帰化アサガオ類等の難防除雑草の発生、排水対策不足等が挙げられる。  
・梅雨時期の降雨により播種が遅れているため、降雨後速やかに播種可能な効率的播種技術(部分浅耕—工程播種)の普及を推進するとともに、ドローン等を活用した効率的な作業体系の確立が必要。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	チクゴイズミ	316	307	334	362	295	364	1,143	905	1,216
	ちくしW2号	52	58	59	372	313	422	195	182	250
大麦	はるしずく	2	5	5	237	273	365	5	13	18
	くすもち二条	28	35	33	396	371	406	111	130	134
作物計		398	405	431	365	304	375	1,453	1,231	1,618

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆	フクユタカ	274	271	287	92	116	89	252	315	255
	ちくしB5号		0.6	1.3		91	127		0.5	1.6
作物計		274	272	288	92	116	89	252	315	257

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	チクゴイズミ	266	84.2%	268	87.2%	295	88.3%	
	ちくしW2号	52	100%	58	100%	59	100%	
大麦	はるしずく	0	0%	5	100%	5	100%	
	くすもち二条	10	35.7%	13	37.1%	13	39.4%	
作物計		328	82.5%	344	84.9%	372	86.3%	

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	212	77.4%	216	79.7%	233	81.2%	
	ちくしB5号			0	0%	0	0%	
作物計		212	77.4%	216	79.5%	233	80.8%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福岡県の基準(同一作物が作付けされており、農業機械の作業が中断されず、作業を継続してできる農用地の一団の集まりとする(4ha))のとおり

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (1) 取組方針

##### ① 需要に応じた生産と販売の実現

麦については、地域の主要品種として、一定の需要が見込まれるチクゴイズミの安定生産を目指し、排水対策の徹底や団地化や効率的播種技術の導入を推進する。

大豆については、播種適期幅が広く、早播きが可能で収量性の高い品種「ちくしB5号」への品種転換を推進するとともに、降雨の影響を受けにくい効率的な播種技術の導入や土壌診断に基づく土づくりを推進し、実需者の求める高品質・安定供給を目指す。

##### ② 団地化の推進

人・農地プランによる農地の集積の推進と連携しつつ、ブロックローテーションの見直し等を検討する会議を開催し、団地化による省力化や作業の効率化を生産者に周知しながら団地化を推進する。

##### ③ 新品種・新技術の導入による効率的な栽培体系の確立

高品質大豆の生産及び安定供給を実現するため、早播き可能な新品種「ちくしB5号」の導入に併せ、効率的播種技術である部分浅耕—工程播種技術、ドローンによる病害虫防除を組み合わせた効率的な栽培体系の確立を図る。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。

## (2)計画

### ① 生産量

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和10年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	チクゴイズミ	334	364	1,216	336	366	1230	
	ちくしW2号	59	422	250	60	403	242	
大麦	はるしずく	5	365	18	6	400	24	
	くすもち二条	33	406	134	35	405	142	
作物計		431	375	1,618	437	375	1,637	

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	フクユタカ	287	89	255	0	0	0	
	ちくしB5号	1.3	127	1.6	295	125	369	
作物計		288	89	257	295	125	369	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。



## ② 団地化

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和10年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	チクゴイズミ	295	88.3%	299	89.0%	
	ちくしW2号	59	100%	60	100%	
大麦	はるしずく	5	100%	6	100%	
	くすもち二条	13	39.4%	15	42.9%	
作物計		372	86.3%	380	87.0%	

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	233	81.2%	0	0.0%	
	ちくしB5号	0	0.0%	249	84.4%	
作物計		233	80.8%	249	84.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

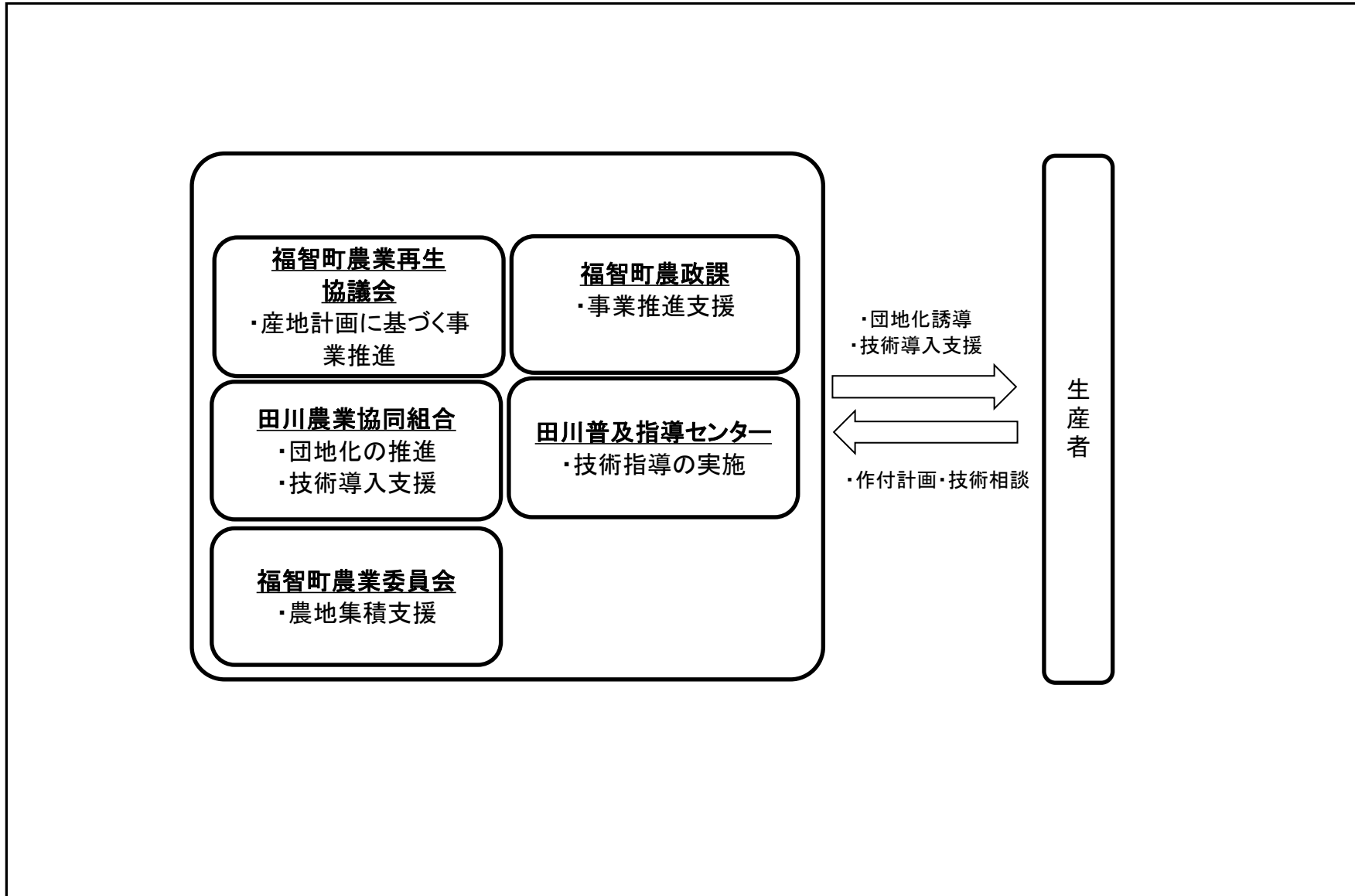
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

#### 4. 推進体制及び役割



## 5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	人農地プラン	令和4年3月31日実質化	
2	水田収益力強化ビジョン	令和4年度	5月・6月 作成予定
3			
<b>具体的連携内容</b> 本計画の実施に当たっては、人・農地プランにおける農地集積の推進や水田収益力強化ビジョンと連携し、麦・大豆の団地化、効率的な播種技術や土壌診断に基づく土づくりを推進し、地域における麦・大豆の生産強化を図る。			

## 6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	大豆の団地化推進、先進的な営農技術の導入、生産性向上に向けた機械の導入

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。